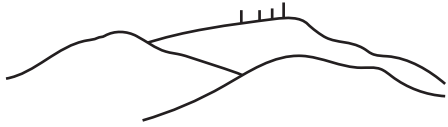


Youth Manna

2021/4/5 - 4/11



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/4/5(月)

Ⅰ 歴代誌 6:1-30

今日の箇所はレビ族の家系です！レビ族は礼拝に仕える一族として、特別に神様に取り分けられた人たちだよ。そしてゲルシオン、ケハテ、メラリの三部族に奉仕が分担されたんだ。この中から、モーセ、アロン、ミリアムが生まれて、アロンの家系が大祭司の家系となったんだね！そのことは神様が約束し、命じたことだったよ。

15節のエホツァダクの時代にバビロン捕囚があり、彼は王国時代の最後の祭司となった。捕囚から帰還した後は、その子ヨシュアが大祭司として国の復興に大きな役割を果たしたんだ。レビ人たちが新約の時代にも神殿での務めを果たしていたことを考えると、彼らもまた、捕囚後に自分たちのやるべきことを果たしたと考えられているよ！

君は何をすることを、神様から期待されているだろうか？みことばから神様の語りかけを聞くようにしていこうね！

2021/4/6(火)

Ⅰ 歴代誌 6:31-53

レビ人はエジプトを出てからずっと幕屋を運搬し、組み立てと解体、修繕したり、その中で使う用具を管理したり、皆の罪のためにささげ物をしたりと礼拝に関わる重要な奉仕の役割を担っていました。

しかしカナンに定住してダビデの時代には、幕屋を移動することもなくなり、その役割も大きく減っていました。神様がレビ人を礼拝の特別な役割に選んでいることを理解していたダビデはレビ人に祭儀における賛美の役割を与えました。(32.33)

時代があって礼拝のやり方が変わることがあっても、神様を愛して第一にし、神様に自分を捧げる心は変わりません。礼拝を大切に生きてするために私達は何が出来るだろうか？

2021/4/7(水)

Ⅰ 歴代誌 6:54-81

イスラエルの部族はそれぞれ居住地を与えられたが、レビ人の居住地はまとまった地域ではなく、イスラエルの全土からいくつもの町々が分散して割り当てられることになっていた。本来、それらの町々は各部族に割り当てられたものだが、そこからレビ族のために町を提供するようにと指示されている。諸部族は、自分たちの所有地から、神に仕えるレビ人が住む場所を捧げるということになる。

一方でレビ族にとっては、居住地が分散しているのは心細いものになる。しかし、彼らの信仰の歩みが、イスラエルの隅々まで現されるという役割もある。

クリスチャンが少ない社会で歩むことは心細いものがあるが、そのように分散していることの意義も大きい。置かれている場所で、神様が与えておられる役割を果たせるよう祈ろう！

2021/4/8(木)

Ⅰ 歴代誌 7:1-19

14-19節はマナセの子孫の系図が書かれている。これは、既にヨシュア記 17:3.4 で取り上げられているが、ツエロフハデには娘たちしかいなく、父の死後、娘たちは土地相続の権利を訴え、その弱い権利が保護されたというエピソードである。これが再び述べられているのは、神さまの恵み深さは、歴史が移り変わってもなお覚えられているということに他ならない。

私たちは神さまのように大きな心を持ってすべてと向き合うことは出来ないが、神さまの関心は私たちの小さな心を越えてあらゆる人々に深く注がれていることを忘れずにいよう！神さまは全ての人に心を向けておられる。感謝しよう！

フォークソングの日 2021/4/9(金)

Ⅰ 歴代誌 7:20-40

▶系図の重要性

歴代誌が書かれた時代（捕囚されたイスラエル人が帰ってきたとき）の人々にとって、系図はすごく大切だった。ほぼ同じ時代に書かれたエズラ記 2:62 には『これらの人々は自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったの、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。』とある。祭司という神様に仕える大切な資格の有無が、系図によって決まったんだ！

▶エフライム族(有名なリーダーもいるね!) エフライムはヨセフの子ともで、北イスラエル王国の中心的な存在だったよ！聖書はその一族全体のことだけではなく、その家系の二人が家畜を奪おうとして殺され、親が悲しんだという個人的なことも記しているね。神様はすべてをご存知で、同時に一人一人の歩みにも目を留めてくださっているお方だよ。

神様が私たちをみて下さっていることを覚えて歩めるように祈ろう！

2021/4/10(土)

Ⅰ 歴代誌 8章

今日の箇所はベニヤミン族の家系がずっと続いているね。有名な人でいうとサウル王やその息子のヨナタンがいるんだけど、何節にいるか見つけられたかな？サウルはイスラエルの最初の王様、ヨナタンは次の王様ダビデの親友だった人だね。

サウルはダビデを妬んで自分が王様でいようとした結果、滅んでしまうし、その中でヨナタンも死んでしまった。だけど、神様はこの部族を滅ぼすことなく守り導いてくださったんだ。

そして驚くことにそのずっと後、新約聖書の時代で大活躍するパウロのところまでその血筋は繋がっていくんだ。

神様はすべての時代に生きておられるお方だね。今この時代でも神様は私たちを愛して守ってくださることを覚えて感謝しよう！

2021/4/11(日)

Ⅰ 歴代誌 9:1-27

歴代誌ではレビ人の役割がしっかり書き記されてないです。

モーセの律法においては漠然とした形でしか規定されていませんでしたが、ここには彼らが再建のために活躍したことが、力強く書き留められています。この人々が果たした役目としては、神殿の門衛、警護に関することと、それから神殿の宝物管理などが記されています。曠野では幕屋の運搬を担った人々、かつてはも一せとともに主の側に立った彼らが、今、再び、神殿礼拝再興のために集まり、力強く立ちました。

主にあって、私たちがなしうる役割は何でしょうか？一人一人の日々のうちで考え、祈り求めましょう！